

令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：25013

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

| 「学ぶ力」 | |
|---|---|
| これまでの 成果 | 課題 |
| 1. 全国学力・学習状況調査の児童質問の結果より、「授業で学習したことを、普段の生活で活用できないか考える」など、 学習を生活に広げようとする 児童が多い実態がある。 ◇札幌市の共通指標より、「人の意見を聞いて、それを参考に自分の意見を見直す」など、 つながって考える 児童が増えてきている。 | ◇学年が上がるにつれて、「 思っていることや意見を進んで伝える 」「 間違いや失敗を怖がらず苦手なことにも挑戦する 」などの 積極的な 児童が減少していることが、札幌市の共通指標や学校独自のアンケートから分かる。 ◇札幌市の共通指標より、「 自分で計画を立てて勉強する 」力に課題が見え、自ら行動に移す姿を伸ばしていきたい。 |
| 「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度 〉の現状と課題 | |
| ◇札幌市の共通指標や学校独自の児童アンケートより、「自分や友達 のよいところを見付けて、仲よく協力して活動 する」よさを感じている児童が増えてきている。半面、「 自分が必要とされている 」と 感じる 児童が全体的に少なく、自己存在感の感受が十分でないことがうかがえる。他者だけではなく自分自身の存在を肯定的に捉える姿を育むために、適切な場面とタイミングでの価値付けや、定期的に自分を見直す場を設定することを続けていく必要がある。 | |

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自ら学び、つながって考える力

| | AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進 | さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実 |
|----|---|---|
| 取組 | ◇授業構築の視点 「自ら学ぶ」姿を生む教材化の工夫 → 問題意識を醸成 するための、資料や情報活用の工夫 (出前授業や体験学習含む) →ねらいに迫る問いの吟味、 個別最適な学びの場 の設定 → 見方や考え方を積み重ねる 単元構成と活動目的の吟味 「自ら学ぶ」子どもを支える教師の関わり →交流(協働的な学び)の目的と形態の吟味 → 学びの整理から自身の自信 につながる、学びの可視化 ◇学校の授業と「 家庭での学習 」との効果的な組合せ | ◇学びの基盤づくり ・「 あこがれ 」「 思いやり 」につながる異学年交流の充実 → 自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成 ・ 自己を振り返り「なりたい自分」を見据える場 の設定 ◇自分たちで作り出す活動の設定 ・ 自主性を大切にした委員会活動(小中一貫Gと連携) ・ 満足感や達成感 が得られる学年での活動、行事 ・ 他者(異学年・家庭・地域)への発信の場 の保障 |

〈本プログラムの実行に向けて〉

